しばたの次代デザイン会議　意見交換概要（第28区）

日　時　：令和8年10月24日(土)　14:00～15:40

会　場　：船迫公民館

参加者数　：21人

町出席者　：町長、副町長、教育長、総務課長、まちづくり政策課長、財政課長、都市建設課長、健康推進課長





No.	意見等	回答
1	現在のはなみちゃん号は、使いづらいと感じている。はなみちゃん号とは別の交通手段について、具体的に決まっていることや想定しているものはあるか。また、新たな交通手段としてバスを考えていないか。	現時点では、槻木、船岡、東船岡、船迫を拠点として、その拠点間を広域的な交通網で結ぶことを想定しています。はなみちゃん号は各エリア内をきめ細かく移動する手段として生かし、エリア間を新たな交通網で結ぶ方法を考えています。ただし、実現可能性、運行費用、運転手確保などの課題を整理する必要があります。バスも検討材料の一つですが、利用者が少ない運行とならないよう、まず実証実験などを行い、バスかワゴン車かを含む最終的な運行形態を検討するため、調査には一定の時間を要します。
2	英検、漢検、数検は、自分の実力を確かめ、新しい目標に挑戦するよい機会だが、検定料が高いため受験をためらう生徒もいる。近隣自治体での事例のように、検定料の一部または全額を補助し、より多くの生徒が挑戦できる制度を設けてほしい。	近隣自治体にも検定料を支援しているところがあります。ただし、予算が関係するため、他自治体の状況や、どの程度の需要があるのかを調査しながら、要望として検討していきます。

No.	意見等	回答
3	ハザードマップについて、災害警戒レベルなどの変更に伴う訂正版や改訂版がページごとに発行されている。それらの内容を反映したハザードマップ全体の改訂版を発行する予定はあるか。	国の災害警戒レベルや対応方法が変わったため、これまで該当ページのみ改訂版を配布したことがあります。町もハザードマップ全体の改訂が必要と考えていますが、浸水想定などを改めて調査しなければ作成できません。外水ハザードマップは、阿武隈川流域については国、白石川流域については県の正式なデータに基づいて作成するため、データ提供後、改訂時期に合わせて配布することになります。
4	地域には車椅子利用者や、自宅で常時寝たきりとなり自力で動けない方もいる。そのような方への減災・避難対策を進めてほしい。	高齢者や一人暮らしの方など、自助による避難が難しい方については、個別避難計画を作成する必要があります。自主防災組織に共助の観点から作成を呼びかけていますが、現時点では十分に進んでいません。議会でも取り上げられており、福祉課と総務課で呼びかけを強化する必要があると考えています。避難所の受入体制についても、毎年担当職員を割り当て、研修を継続します。
5	将来も若い世代が住み続けたいと思える町にするには、中高生が魅力や暮らしやすさを感じられるまちづくりが必要である。中高生が町への意見や要望を気軽に伝え、町が検討して結果を伝える仕組みを設けてほしい。	これまでの住民懇談会は大人の参加が多かったため、今回の会議は、年長児から中学生、大人まで幅広い年代が一つの会場で話し合える機会として企画しました。中高生の声を聞く必要があると考えています。学校行事として行うと授業時間や教職員の負担に影響するため、中高生を対象としたタウンミーティングのような場を別に設けられるか、教育委員会や学校と相談しながら進めたいと考えています。しばたの次代デザイン会議は3年間実施する予定です。

No.	意見等	回答
6	近隣自治体の事例では海外研修費用の補助があるが、柴田町では子どもの海外研修や、中高生の自治体間交流について何か考えているか。	現在、柴田町には明確な海外研修費用の助成制度はありません。中国の丹陽市と友好姉妹都市になっていますが、交流は10年以上にわたり途絶えています。国内では岩手県北上市との姉妹都市交流や、伊達政宗に関係する自治体との「いいとこサミット」があり、スポーツ少年団の交流などを行ってきました。中高生の交流を希望する声について、今後、関係自治体の首長へ要望として伝えることは考えられます。
7	事情により柴田小学校へ通っているが、保護者は共働きで迎えに行けず、4年生から児童クラブが定員超過で利用できなくなったため、はなみちゃん号を利用している。教育委員会から利用を控えるよう求める趣旨の文書が届き、不安を感じた。今後も柴田小学校に通えるよう、はなみちゃん号の利用枠または児童クラブの定員を増やし、町長にも学校を訪問して交通手段や予約方法を一緒に考えてほしい。	町はそのような声と状況を承知しています。現状と課題を整理する一方、保護者に協力をお願いする部分もあると考えています。教育委員会と協議し、現状確認を含めて今後の送迎の在り方を話し合います。はなみちゃん号の通学利用と保護者への依頼事項との関係も整理します。この場ですぐに回答はできませんが、町長も柴田小学校を訪問して子どもたちの声を聞きたいと思います。 デマンド型乗合タクシーは、町内の2つのタクシー事業者に運行を委託しています。町では予算を確保し、令和8年10月から夕方の便を増やす予定でしたが、タクシー事業者の事情により難しくなりました。地方では運転手への応募が非常に少ない状況であり、町長から知事にも状況を伝えています。事業者と連携し、常時4台を稼働できるよう調整しています。

No.	意見等	回答
8	柴田町LINEで配信される震度と、テレビで放送される柴田町の震度が異なることがある。どちらが正しいのか。また、LINEで配信する震度を正確な観測値へ修正できないか。	テレビで放送される柴田町の震度は、しばたの郷土館敷地内にある、気象庁の基準を満たした公式の震度計による観測値です。LINEは即時性を重視した自動配信であり、一定のエリア内で強い地震が発生した場合に、注意喚起として震度情報を配信しています。町の観測値を確認してから職員が配信すると注意喚起が遅くなるため、テレビの震度と差が生じる場合があります。現状の技術では、柴田町の正確な観測震度を瞬時にLINEで配信することはできません。
9	社会福祉協議会では令和8年6月頃までバスを高齢者の外出などに使用していたが、現在はバスがなくなり、遠方へ出かけられないとの声がある。柴田町に町所有のバスはないのか。また、町でバスを購入する可能性はあるか。	町にも以前はバスがありましたが、運転手がいなくなったことや安全上の問題により、廃止から約5年が経過しています。現在、小学校の校外学習や部活動の大会では民間のバスを借り上げています。全国的なバス運転手不足により、バスの台数確保も難しい状況です。地区の積立金を利用して民間バスを借り、事業を実施した例もあります。町は現在バスを所有していない状況ですので、ご理解をお願いします。

No.	意見等	回答
10	「柴田国債」や社債のような仕組みを設け、町内の大企業などに町の取組を説明して資金を集め、教育やまちづくり、中学生の海外研修などに活用してはどうか。	令和8年度の町の予算規模は約160億円で、これまでの借入金の返済に毎年約15億円を充てる一方、新たな借入額も約14億円となっています。現在は返済額を超える借入れを行わず、借入残高を減らす取組を進めており、残高は一時の約170億円から140億円台まで減少しました。今借りた資金は将来世代が10年から30年かけて返済するため、新たな国債や社債のような資金調達は現状では難しいと考えています。借入れ以外では、企業版ふるさと納税などにより企業から寄附を受けることが可能です。使途を指定できるため、中学生の海外研修に使ってほしいという寄附であれば、事業に充当できる可能性があります。
11	船岡城址公園や白石川という町の資産を生かし、仙台大学のボート部などと連携した東日本大会を開催するなど、人を呼び込み、定着につなげる企画を行ってはどうか。	ボート競技のコースには最低でも1,000メートルの直線が必要ですが、白石川では確保できないため、競技コースとしての活用は難しい状況です。一方、ボートの練習場所としては利用しています。桜の時期には、さくら歩道橋付近でカヌーを浮かべる方もいますが、個人利用に関する手続は確認が必要です。令和9年3月にはスロープカーがリニューアルオープンする予定です。柴田町だけで観光を完結させず、蔵王など県南地域の観光地と連携し、町内消費、経済効果、新たな魅力の発掘につなげたいと考えています。

No.	意見等	回答
12	町内には大企業、自衛隊、役場などに若い人がいる。若者が柴田町で暮らし、定住し、結婚や子育てにつながるよう、マッチングアプリなどの出会いの仕組みを設け、人口減少に一定の歯止めをかけてはどうか。	宮城県では、マッチングアプリそのものではありませんが、結婚支援に関する取組を行っています。柴田町でも以前、自衛隊関係者などを対象とした取組があったと聞いています。現在は、町が職員に参加を求めることは難しく、参加は個人の判断になります。一方、信頼できる民間団体が同様の取組を行うことは考えられます。機会を捉え、町内外の団体に声をかけることも検討し、若い人が町に住むための視点を大切にします。
13	令和元年東日本台風では船迫公民館も浸水し、再開まで約1年かかった。阿武隈川は国、白石川は県の管理であることは理解しているが、財政面の制約がある中でも、町として何ができるかを考え、住民を巻き込んで一緒に減災へ取り組む場を設けてほしい。	減災については今後、前向きに検討します。町が提供できるデータもありますが、阿武隈川や白石川に関する情報など、国や県から提供されなければ議論できないものもあります。国土交通省からは、町民の依頼があれば出前講座などにいつでも対応できるとの説明を受けています。国や県の河川データや考え方を基に、住民と一緒に考えるワークショップなどを実施できればと考えています。
14	槻木駅や船岡駅の駅前が寂しく、乗り降りするだけの場所になっている。空き店舗を活用し、商工会、観光協会、商店会、住民の意見を聞きながら、駅前をにぎわいの場にする取組を進めてほしい。	船岡駅前では店舗が閉店するなど、店が減っており、駅前活性化は重要な課題と認識しています。一方、槻木駅周辺には新たな店舗ができたと聞いています。町ではイルミネーションなどの取組を行ってきました。町だけが主体になるのではなく、地区のまちづくり推進協議会、商工会、商店会などが連携し、地域の皆さんが主体的に声を上げ、町が支援する仕組みや体制が大切だと考えています。駅前は町の顔であり、重要な意見として受け止めます。

No.	意見等	回答
15	駅前への移動手段として、はなみちゃん号を含む交通網を一体的に考えてほしい。はなみちゃん号は時間設定などが不便であるため、デジタル予約など柔軟な運用が可能とされる別の方式も含めて検討してほしい。	デマンド型乗合タクシーにはさまざまな方式があり、それぞれの地域に適した運行方法があると考えています。提案された方式も含め、今後、調査研究を重ねます。
16	部活動などで帰宅時間が遅くなると、通学路の街灯が少なく、周囲が見えず怖い。街灯を増やしてほしい。	町では、通学路などを重点的に選び、街灯を設置しています。町内には約3,600基の街灯があり、設置間隔にも基準があります。具体的に暗いと感じる場所の申出を受け、現地を確認します。
17	町が重点的に取り組む内容だけでなく、現在町に住み続ける町民に向けた取組も必要である。防災訓練、秋祭り、高齢者も参加できるスポーツ大会、以前の町民運動会など、町民全体が一つになり、自分も参加できる事業を企画してほしい。	以前は自衛隊の敷地内で夏祭りや花火大会を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行前後から休止しています。近年は、商工会青年部によるサマーフェスティバルや花火大会、農協青年部のイベント、バーガーフェスなどが開催されています。町には、住民や団体の提案を支援するまちづくり提案制度があり、提案があれば可能な範囲で支援します。町民運動会は行政区単位で参加者を集めることが難しいとの声もありますが、町民の一体感は重要であり、既存イベントに加えて何ができるか考えます。
18	歩いて行ける場所や、駅を利用するときに立ち寄れる場所に本屋をつくってほしい。お小遣いの範囲で趣味の本や小説を買いたいが、現在の本屋は遠く、買いたいと思ってもなかなか行けない。	現在、町内の本屋は1店舗と認識しています。以前は船岡の町なかにも本屋がありましたが、現在は町外資本の店舗だけになっています。町から出店を依頼することはできますが、企業は採算が見込めない場所には出店しにくい事情があります。本に親しむことは大切であるため、意見として受け止めます。学校図書館のほか、学校司書に相談すれば、宮城県図書館や町の図書館から本を取り寄せるレファレンスサービスを利用できる場合があります。新しい柴田町図書館は令和10年4月にグランドオープンする予定です。

No.	意見等	回答
19	船岡駅前に屋外展示されている電気機関車が、塗装の剥がれなどにより野ざらしの状態に見える。今後廃車にするのか、それとも、きれいな状態で保存するのか。	車両は町の公園である船岡駅前緑地に設置されています。ED71という古い電気機関車で、国内に2両しか残っていない貴重な車両と認識しています。JRが所有し、町が借りて展示しています。塗装の剥がれや窓の破損などがありますが、保存会というボランティア団体が年1回、塗装や修繕を行い、町はフェンスの設置と周辺の草刈りを行っています。保存会と相談しながら、きれいな状態で見てもらえるよう協力し、多くの方に見てもらえるようPRしたいと考えています。
20	約5年前にオンラインの意見交換会へ参加したが、今回は顔を合わせて話せる場が設けられたことに感謝している。柴田小学校のプールが使えない際に別のプールへ通うバスを出すなどの配慮にも感謝している。この場ですぐに何かが決まらなくても、町職員と町民が集まって意見を交わせること自体が大切であり、今後も開催してほしい。	今回のような対面でのタウンミーティングを評価していただきありがとうございます。しばたの次代デザイン会議は今後3年間実施し、さまざまな場所を訪れて住民の意見を聞く予定です。